

TRICOLOR

小3~小6夏休み遠征について

今年の夏休みは「白馬サマーカップジュニア(U-12)フェスティバル」に参加することになりました。下記のとおり2泊3日の遠征を実施しますのでお知らせいたします。詳細については別途ご案内させていただきます。

- 対象/小3~小6
- 期日/7月30日(土)~8月1日(月)
- 場所/長野県白馬村
- 費用/未定

海洋キャンプについて

今年も夏休み恒例の「海洋キャンプ」を下記のとおり実施しますのでお知らせいたします。詳細については別途ご案内させていただきます。

- 対象/小3~小6
- 期日/7月23日(土)~7月28日(木)
- 場所/YMCA 阿南国際海洋センター
(徳島県阿南市)
- 費用/49,800円(予定)

大会・公式戦結果

Junior Youth

【日本CY(U-15)県大会】

▼1回戦
 vs FC COJB 1-3●

Papas

☆Rec

【県シニアリーグ四十雀4部】

vs 鎌倉 OB 0-4●
 vs コロコロ 3-2○

☆Comp

【県シニアリーグ四十雀2部】

Vs 栄光クラブ 3-2○

今、グラウンドでは・・・

Top

サッカー界では、サッカー協会を中心

に、「がんばろう ニッポン ～サッカーファミリーの力をひとつに!～」をスローガンに復興支援活動を実行しています。皆様も様々な立場で復興支援に携わっていることと存じます。私たちは、このような状況の中でも、サッカーができる環境にあることに感謝し、公式戦を戦って行きたいと思えます。

4月に入り新戦力も加わり、選手の意識改革によるポジション争い等、チームの活性化を図りました。効果として、個人に頼る得点から複数人が関わり得点できるパターンが見られ、期待がもてるレベルにあがっています。逆に、消極的な判断・集中力の欠如から生じるミスにより攻撃のリズムを崩し失点するケースが多いため、限られたトレーニングの中で信頼関係等の向上により改善を図りたいと思っています。

県リーグ初戦5月15日(日)には、「力を一つにしてポジティブに戦う姿勢」を体現し、サポーターの皆様には「感動と共感」を得て頂けるように準備して参りますのでご期待ください。ご声援よろしくお願いたします。(田村 恵久男)

Youth

夜間のグラウンドが利用できない状態が続き、平日は体育館での活動になっています。狭いスペースになってしまうため、一度に走る距離が短くなり、どうしても体力の低下や視野が狭くなる傾向があります。

今月は16日以降、17:00-19:00ではありますが、ようやくグラウンドでの練習ができるようになります。しかし、あいにく学校の間試験が始まる頃でもあります。それでも6月には、県のクラブユースリーグやU-18リーグが始まります。すべてとは言いませんが、週に一日くらいは都合を付け、練習に顔を出すとともに、少しの時間を見つけてはボールを蹴ったり身体を動かしておいて下さい。

また、怪我や障害を抱えている選手は、今しっかり治すことに集中して下さい。休む時、勉強をする時、トレーニングをする時、と「何をすべき時なのか」をわきまえ、



そのことに集中しましょう。これらは何もサッカーに限ったことではありませんよ。

(内田 佳彦)

Junior Youth

日本クラブユース(U-15)選手権県大会(以下、日本CY)は1回戦で敗退しました。残念な結果ではありますが、終わってしまった以上はこの結果をしっかりと受け止めて今後につなげていくしかありません。

3年生にとっては集大成の年になります。日本 CY はチームにとって一つの大きな目標だけに出鼻をくじかれた感がありますが、最後まであきらめずに戦う姿勢という部分では成長が見られました。今後チームが飛躍するためには、この戦う姿勢を継続していくとともに、技術の向上が不可欠です。試合で使える技術というものをしっかりと理解し、危機感をもって技術レベルの向上に取り組んでください。

3年生は悔いを残さないように、1・2年生はその3年生の姿を見て思い切ってプレーできるように、そんなシーズンにして欲しいと思います。

【1年生】

今年は15人のメンバーが上がってきました。現在、ジュニアユースは震災の影響でナイター照明が利用できないため、平日の活動が流動的となっています。1年生にとっては、入っていきなり大変な環境ですが、頑張っついてきてほしいと思います。

また、今年は1年生の人数が揃ったので県U-13リーグにエントリーしました。1stステージの大会期間は5/21(土)～10/23(日)で、5/8(日)に組み合わせ抽選会が行われます。詳細は決まり次第、随時お知らせします。(二木 昭)

小 6

【“クリエイティブでたくましい選手”を目指して】

4月から新小6チームとして活動を開始しました。例年なら4月に始まる横浜市春季少年サッカー大会が5月からグループリーグ戦のみの開催となったことから、この4月は子供たちと保護者の皆さまとコミュニケーションを図る時間も持たせてもら

えました。引き続きこの年代で身につけて欲しいこと(意識・技術・戦術理解)を繰り返して伝えながら1年間活動して行きます。

【公式戦への取組】

GW明けから全日本少年サッカー大会神奈川県大会、横浜市春季少年サッカー大会が始まります。公式戦については「勝つサッカー」を目指しその時点で最良と思われる選抜メンバーにて参加します。試合の形勢・個人の調子・相手との対向など、状況を見ながら選手起用も判断していくことから出場時間にバラつきが出ることもあります。選ばれたメンバーには「クラブを代表してプレーする」という強い意識を持って参加して欲しいと思います。もちろん選ばれなかったメンバーも含めた全員で「かながわクラブ」というチームであることに変わりはありませんし、「ダメだからメンバーに選ばれない」のではないことも全員に既に繰り返し伝えてあります。保護者の皆さまにもその点を是非ご理解いただきたいと思います。尚、5/1現在の公式戦情報を下記します。

*全日本少年サッカー大会神奈川県大会

▼1回戦

vs 山崎 SC(鎌倉) @二宮町民運動場

*横浜市春季少年サッカー大会

(L-4ブロック)

YTC FC、バティールSC、柏尾 SC、岩崎 FC、和泉 FC、黒滝 SC、かながわクラブ

※詳細は決まり次第お知らせします。

【応援してください！】

保護者の皆さまへは毎度のお願いですが、是非とも港北小、試合会場へ足を運んでいただきお子さんのがんばっている姿を見てあげてください。試合の際には、タオルマフラーを掲げ、大きな声援・大きな拍手で選手たちを励ましてください。お母さん、お父さん方の声援は間違いなく彼らに元気と勇気を与えてくれると信じています。(小野 津春)

小 5

新年度がスタートしてから、約1ヶ月が経過しました。「鈴木コーチはどんな人なんだろう。何をどのように教えてくれるんだろう。どんな風に接してくれるんだろう。」大なり小なり選手たちにも不安があったことと

思います。

この一年間で彼らに伝えたいメッセージは、サッカーという競技を楽しむこと、そしてどんな時でもベストを尽くすこと、この2つしかありません。スポーツに限らず、楽しくなければ長続きしませんし、また前向きに取り組むことができなければさらなる成長を期待することも難しいでしょう。「次の練習が待ち遠しいなあ。」そんな気持ちになってもらえるような雰囲気づくりに努めたいと思います。

【対外試合について】

4月以降、すでに何試合か行っているため、お気づきの方もいらっしゃると思いますが、対外試合においては基本的にすべての選手に対し、ほぼ同じ時間プレーするチャンスを与えるつもりです。そのため、ここまでの試合では、ハーフタイムで全選手を入れ替えています。この年代の選手たちには、無限の可能性が 있습니다。この先、誰がどのように伸びていくかは、まったく予想が付きません。私たち大人が目先の勝利にこだわってしまうと、彼らの可能性にフタをしてしまうことになるかもしれません。

また、忘れてはならないのは、サッカーは団体競技であるという点です。「僕は(私は)仲間のため、チームのためにプレーしている。そして仲間も自分を必要としてくれている。」団体競技の良さは、このような心境で競技に臨むことができる点ではないでしょうか。たしかに、特定の個人に頼ったゲーム運びをし、試合開始から終了まで子供たちにそのやり方を徹底すれば、結果としてそのチームは好成績を残せるかもしれません。しかし、全員で得点を狙い、全員でボールを奪い返し、結果勝利すること。同じ勝利でも、どちらが輝いているかは言うまでもありません。みんなが1点を奪うこと、そして終了のホイッスルが鳴るまであきらめずに全力でプレーすること、これが私の目指すスタイルです。

良い選手というのは、サッカーがうまい選手ではなく、いつでもどんな時でもベストを尽くすことのできる選手です。これからもその視点で、選手たち一人ひとりを見

守っていきたくて考えています。

(鈴木 章弘)

小 4

【想像力は学ぶ力！】

今回は全く(とは言えないとは思いますが…)サッカーとは関係の無い話をしたいと思います。先日の練習時に小さな石ころを拾ってグラウンドに向かって投げている子がいました。小さな石ころですし、誰かに当たったら怪我をするから絶対に投げてはいけなくと注意をしました。数分後こぶし大の大きな石ころが私の耳を掠めて飛んでいきました。一部始終を目撃した周囲の子どもたちに事情を聞くと、誰かが持っていた石ころを、「なにそれ？」と言って受け取った子が「何だ、ただの石ころか！」と言って投げたそうです。この話を聞いて背筋に冷たいものが走りました。

すぐに、貴重な練習時間を割いて「なぜ石ころを投げてはいけなくのか」についてを子どもたちに話しました。笑い事ではなく真剣に話をしました。そのときに言ったのが「想像してごらん。投げた石ころが誰かに当たったらどうなると思う？」ということです。流石にそのときは私の剣幕に気おされたのか「怪我をする」とか「死んじゃう」という言葉が子どもたちの口からは聞かれました。

また、その次の活動は試合に出かけていったのですが、その際には試合開始を待って整列している子どもたちのなかで、仲間の足を踏みつけたり、蹴飛ばしたりという光景を目にしました。そこでも試合開始を少し遅らせてもらい、「想像してごらん。仲間が足を怪我して試合に出られなかったり、試合で満足な動きができなかったら、どうするの？試合は一人ではできないし、仲間に怪我をさせることはチーム全体が困ることになるんだよ。」と注意をしました。

最近の子どもたちはゲーム機でばかり遊んできたせいか、刺激に対する反応は素早く、目を見張るものがあります。しかし、じっくりと考える習慣、相手の立場を考えること、行動を起こす前に結果を想像することなどが非常に苦手なようです。しかし、今回はさすがに「非常に苦手なよう

す」と第三者的なコメントのみでお茶を濁すわけにもいかず、安全にサッカーを楽しむためにも、子どもたち全員に注意を促したわけです。

こうしたことから考えると、私見ではありますが、どうやら「頭の良さ=想像力」ではないかという結論に辿り着いたのです。もちろん学校の成績ではなく、生きるための力という意味での頭の良さです。勿論サッカーにおける頭の良さにも通じるような気がします。ファンタジスタという言葉があるように観ている私たちが想像もしなかったようなプレーをする選手が一流なのですから。

【戦う気持ち】

さて本題(?)に入りたいと思います。先月は「公式戦には勝ちに行く」というお話をしました。これには4年生ぐらいになると、そろそろ頭でサッカーというものを理解して戦う気持ちが芽生えてくる時期であることと関連します。

サッカーはご存知のように、野球、テニス、バレーボール、アメリカンフットボールなどの球技のようにじっと耐えて待っていれば攻守の交代があり、攻撃の機会が与えられるスポーツではありません。試合開始から終了まで、たった1個のボールをめぐる攻撃したり、防御したりということを繰り返すのです。勝利のためには、相手からボールを奪い、シュートを決めなければなりません。防御一辺倒では勝つことができないのです。

そこで、まず第一に大事なことは、相手からボールを奪うことになります。そしてボールを奪ったら、第二に大事なことは相手にボールを奪われないようにすることです。「サッカーはルールのある格闘技である」という言葉があるように、ボール1個をめぐるの激しい攻防がサッカーの魅力でもあります。だからといって、殴り合いの喧嘩に発展するような無秩序なことはありませんので、安心してください。選手個々がルールを守っていれば、逆にルールによって守られるのですから、ユニフォームの色が違う相手に対しても臆することなくボールを奪い取る気持ちで激しいプレーを仕掛けてほしいものです。

確かにラグビーのように直接的な肉体の接触はそれほど多くはありません。しかし、随所に体と体のぶつかり合いは見られます。それはルール上認められたもので、ボール保持者に対して適正な力で肩と肩をぶつけること(ショルダーチャージ)です。あまりにも過剰な力でしかも暴力的なチャージはファウルになります。一人対一人でボールに触らずにボールをキープする練習がそうしたことへのトレーニングになります。

こうして考えてくると、「戦う気持ち=ボールを奪う気持ち」と言っても良いでしょう。ボールがなければ何もできません。ただただ守ることだけをしているのでは楽しくもありません。まずは相手からボールを奪うことを全員で激しくやって欲しいものです。

【悔しさがなければ進歩なし！】

どんな試合でも負けると悔しくてたまらない性格の私としては、その部分は指導者としての資質に欠けていると普段から思っているのですが、先日の試合後に「コーチ、俺は今日試合に負けて悔しいよ！」と言ってきた子がいました。そこで悔しかった理由を尋ねると「学校のクラスメートにゴールを決められたから」という答えが返ってきました。「では、その子よりもっとゴールを決められるように練習しようね。」とアドバイスをしました。

身近なライバルを持つこと、努力すれば到達可能な目標を持つことはサッカーに限らずあらゆる場面で大切なことです。そして悔しい気持ちは大きなエネルギーに変わる可能性を秘めています。ところが、コーチから叱られたり、貶されたりして芽生えた悔しさはコーチに対する恨みに転化することはあっても、決して大きなエネルギーに変わることはないと思います。試合で対戦し、同じ4年生として負けた経験が、そして肌で感じた差が悔しさになり、練習に臨む姿勢が変わってくるのです。

しかし、残念なことにこうした悔しさには個人差があることも事実です。また、真剣に試合に臨んでいるかどうかによっても大きく左右されます。ですから、今回の公式戦に際しては少なくとも全員が真剣に試

合に臨むこと、そして一人一人が最大限の力を振り絞ること(一生懸命にやる)を心がけて欲しいと思います。手抜き(足抜き?)のプレーはチーム全体に迷惑をかけますから。そして4年生全員が公式戦を通じて大きく成長してくれることを願っています。(佐藤 敏明)

小 3

【忘れてはいけないこと】



タイのフジテレビと言われているChannel3の日本復興チャリティーオークションに出演。ユニフォームをオークション販売し落札価格を義援金にする番組です。
 (左から館選手、丸山選手(元Jリーガー)、司会者、財前選手(元Jリーガー)、元U-17日本代表キャプテン、野口ピント選手(元Jリーガー))

僕たちの住む横浜は現在震災前と同じような状況になりつつあり、日頃の生活ではあまり不便を感じることはなくなって来ていると思います。しかし、被災地はどうでしょう？今尚苦しんでいる人、将来に不安を抱える人たちがたくさんいます。僕たちに出来ることは限られていますが、継続して出来ることをすることが大切だと感じています。

そこで今回は度々トリコロールで紹介している元かながわクラブ Top チーム在籍で、現在ではタイリーグにてプロサッカー選手として頑張っている館洋介選手の活動を紹介します。

館選手は異国タイで一人でプロサッカーの門を叩き、人生で初めてのプロサッカー選手として現在生活をしております。震災が起こった後、彼はいち早くいろんな行動に出ました。タイでの知り合いたちでチャリティーフットサル大会を開催し義援金を募ったり、所属チームに「日本への義援金イベント」を進行し、試合でイベントを開催させるまでに至ったりと、自分で出来る積極的な行動をしており、同じかながわクラブ出身の選手として、とても誇りに思いました。こうした評価かはわかりませんが、やはり頑張り抜いている姿がタイでも評価されたんだと思います。最近ではテレビや新聞に度々でているようです。日本の雑誌には載りませんが、皆さんも今後、遠く日本から応援して頂き、注目して頂きたいと思います。

タイのフジテレビと言われているChannel3の日本復興チャリティーオークションに出演。ユニフォームをオークション販売し落札価格を義援金にする番組です。

【今後の練習は】

基本技術(止める・蹴る・運ぶ)に更なる磨きをかけていきたいと思います。特にファーストタッチへの執着心を高めることを重点的に指導していきたいと思います。サッカーは常に流動的なスポーツです。ファーストタッチ次第でその後の展開が 180 度変わってしまうと言っても過言ではありません。ファーストタッチを意識すること、ファーストタッチで思い描いたコントロールが出来るようになること、思いどおりにコントロールした後いろいろな選択肢を見つけれられるようになること、選択肢の中から一番良い選択が出来るようになることと、

徐々にステップアップ出来るようになって欲しいという願いを込めて今後も指導していきたいと思っています。

(益子 伸孝)



活躍の様子です(現地新聞記事)なんて書いてあるかわかりません(笑)

小 2

4月は年長・小1・小2対象の無料サッカースクールが開催されました。お陰様で年長・小1だけで毎回40名前後の参加者があり、大盛況のうちに終わることができました。対象者へのお声かけ等にご協力いただきありがとうございます。また、小2クラスでも現在6名の選手が体験参加中です。慣れない体験中の選手たちを温かく迎え入れ、さらに盛り上げていきましょう。一方で体験スクールと同じ時間帯に練習を行った小2クラスは校庭半面のみでの練習を強いられ多少窮屈な思いをさせた部分はあるかと思いますが、活動時間を延長し全面での試合を行う等の対策を行っていきました。今後も幼児・小1クラスの入部状況を見ながら、可能な限り活動時間を別にした活動時間を延長したり練習メニューを工夫したりしながら、十分な活動時間・内容を確保できるよう努めてまいります。

【活動での取り組み】

4月の前半はボールを使わないステップやラダーを使った練習等、俊敏性を高めるための動きを多く取り入れ、後半では対外試合の日程が決まったということもありますが、3対3や4対4、ミニゲームや全面でのゲームなど流れの中でボールに多く触れられるようなメニューを多く取り入れていきました。今後も楽しみながら流れの中で個人の技術を高めたい練習を多く取り入れていきたいと考えております。また、今後も可能な限り対外試合を組んでいくつもりです。慣れない場所や初めての相手との試合で緊張や普段通りにいかない部分があるかと思いますが、失敗を恐れず普段の練習で習得したことが一つでも多く試合で出せるようどんどんトライしてみてください。そして、試合で思い通りにできなかった部分は次の試合では思い通りできるように、上手くできた部分はさらに上手くできるように普段の活動に取り組んでみてください。

さらに、今月は「5月中にリフティングを連続10回以上出来るようにする。」という宿題を出しました。テストをして10回以上出来た人はA、5～9回のはB、1～4回のはCと伝えましたが、1回でも多く自己記録を伸ばせるよう活動前後の時間帯や平日に挑戦してみてください。1人でも多く10回以上できる選手が現れるよう期待しています。

(豊田 泰弘)

【幼児・小1】

4月中3回の体験期間には延べ120名を越える参加がありました。毎回小2と同時間帯での活動であったため、「ちょっとした運動会ですねー(内田理事長)」の言葉どおり、保護者の方々を含めるとグラウンドは150名近くの人で溢れていました。迎える側としては実に光栄なことであり、多くの子供たちとサッカーができる「楽しさ」を毎回味わうことができました。と同時に、子供たちに「楽しかった。また来たい！」の思いを提供できたかどうか、大きな責任を感じました。

子供たちにはサッカーが好きでグラウン

ドに来てもらいたい。そして、コーチが好きで来てくれることもスタッフ全員の願いです。子供たちに安全で快適な空間を提供し、責任を持って子供たちに接する。そのためのコミュニケーションを大切にして信頼関係を築いていく。そして、人生の先輩として、サッカーの指導はもちろんのこと、人間性の教育にも本気で取り組む。

その思いを胸に、練習前・練習中・休憩中・練習後に一人ひとりと会話することを心がけていきます。1年間、どうぞよろしくお願いいたします。(近江 柔)

【Papap】

【チーム体制】

Over40の体制が固まって、本年度のPapapのチーム体制が整いました。県シニアリーグ四十雀の部4部に参戦するRecは、8月に40歳になる三上さんを加えて24名ですが、うち50代が11名です。Compは6月に40歳になる吉瀬さんを含め22名、うち50代は4名です。

Over40はRec&Compの46名にOver40のみ参加の7名を加えて大所帯の53名です。うち、50代が20名です。Over40の50代は、来年1名増えて、再来年には5名増えますので、50歳代が26名ぐらいになります。いよいよOver50のチームが創れそうです。もともと60歳代も増えてしましますが…。

【試合日程】

県シニアリーグ戦ですが、4部のRecが4月～10月に12試合、2部のCompが4月～10月に11試合、さらに神奈川県議会議長杯がありますが、トーナメント戦ですので試合数は勝利次第ということになります。

横浜市シニア委員会のOver40の試合ですが、現時点で、交歓試合が3試合決まっております。後2試合ぐらい行われるかと思えます。マスターズは予選リーグAグループで4試合が決まっております。決勝トーナメントでの試合数は勝利次第ということになります。準決勝・決勝はニッパツ三ツ沢で行われます。今年も三ツ沢目指して頑張りたいと思います。(茅野 英一)

【ヨーガ】

【横浜マック】

マックという団体を知っていますか？
いいえ、ハンバーガーではありません。アルコール依存症の方々が社会復帰をするのを支援するNPO団体です。この団体でヨーガを指導させていただくようになって、2年程になります。

先日、某公会堂で催されたマックのイベントに出席してきました。「ステップセミナー」というイベントです。マックの指導は、基本となる「12ステップ」をひとつずつ進んでいきます。この、それぞれの段階における実体験を、それぞれの人が語るのです。さぞや辛いことだっただろうと思うのですが、語る皆さんは明るく、自らの体験を笑いにしています。すごいです。

そして、この「12ステップ」はヨーガにも通じることが多いのです。全てのひとが幸せになるために必要なステップだと思うのです。すごいです。深く感動しつつ、帰路につきました。(伊藤 玲子)

【理事長の戯言】

【サツキとツツジ】

若葉が鮮やかで花も美しく咲き、一年で一番好きな季節になりました。拙宅の庭には、母親がまめに育てているいろいろな植物があり、それらがきれいに花を咲かせ



ています。そんな中に、一株に数色の花を咲かせているツツジがあります。今まで気がつかなかったのですが、先日遊びに来てくれた友人が見つけてくれました。しかし、元来植物には全然興味がなかったので、ツツジとサツキの区別もよくつきません。いや、見た目が違うのはわかるのですが、どっちがどっちだかわかりません。そう、まるでヒラメとカレイの違いのようです。

なので調べてみました。

葉の大きさや光沢の有無などで違いははっきりわかるらしいのですが、一番面白かったのは俳句の季語。ツツジは「春」で、サツキは「夏」なのだそうです。「へえ～」ボタンをいっぱい押ししました。

(内田 佳彦)